

乱

馬

んま



片耳豚
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

is required of Rannma! Explanation is requir

乱馬 半馬 半馬



片耳豚
ふれぜんつ

Rannma! Explanation is required of Rannma



らんまの理不尽調教誌



借金のカタに取られた先が
変態富豪だったようで
女らんまかなり受難
みたいな話



こっちの事情にも詳しく
どうにも俺の体質を知って
親父に金を貸す気になつたらしい



クソ親父が金を持つてくるまで
俺は借金のカタとして
負債を肩代わりしたという
金持ちのおっさんに
返済できるまでの間
あずけられる事になつた

はつきり言つて
このおっさん相当胡散臭い



今ひとつ何を考えてんだか
よく分からんおっさんだが……



金が返し終わるまで
俺は基本的にこのおっさんの
所有物という扱いになるらしい

見張りが何人もいて屋敷からは
出してもらえなそーだが
それ以外は比較的自由
ただし——条件として
いつも女の体のままでいることときた



まあ……要するに
そういうコトが目当て
なんだろうな——

案の定というかなんとか
おっさんから俺に出た条件は
だいたい予想していた通りの
モンだった

一つは、おっさんに呼ばれた時は
必ず寝室にやってくる

もう一つは、
寝室では自分の命令に
抵抗しないこと

つて——なんだよ！
何かと思ったら
単なるエロオヤジじゃねえか！

ハイハイ、大人しくしてればいいんだろ
この部屋じゃ命令は絶対だからなう！
畜生つ……こりゃあ早いとこ
隙を見て逃げ出さねえと

ギンツ

くっそ……このおっさん
俺が元は男だってこと
知ってんだらうがっ！
変態かっ！

変な触り方しやがって……
最近胸がでかくなったから
服がちよい小せえんだよな

そう言っちゃったらニヤけながら
「どうぞご自由に」ときやがった
ムカつくおっさんだぜ……

服をはだけられた時はなんか一言
言っちゃろうかと思っただが
なにが——「約束を破るなら
親父さんの安全は保証しかねる」だっ！

「ああそうかよ！ だったら
こっからは声も出さねえよっ！」

—やばい、なんだこれ？
ちよつとまで普通じゃねえ
俺のカラダどうなってるんだ？

時間が経つにつれて
触れられたトコロが……
声が……抑えらんねえ——っ

やめろバカッ！
そんな……胸ばかり——

うわあああ——！
声……声、出ちまうっ
乳首ひねられるとお

やめ——やめろっ
チクシヨオ何でだっ！

随分長い時間この部屋にいるから
そろそろ効いてきたか
——だと？

まさか、この変な香り——
香りに何か
うわああ！ くそっ！
頭がぼんやりして考えが
まとまんねえ——

それから俺は
全く抵抗出来ないまま
おっさんに、いいように触られ続けた

声なんてとつづくに
抑えられなくなつて
女みたいな変な声を
何度も上げさせられた

胸なんかは満遍なく
もう舌が這つてない場所なんて
残つてないくらいに舐めまわされて
乳首をさんさんいじられまくつた

胸と一緒に股間を弄られるのが
一番効いた。めまいが痺れに変わる
「それは君がイキそうなんだ」
おっさんの声で
さらに痺れが強くなる――

日付が変わつて解放されるまで
俺は「イキそう」な状態のまま
ドロドロにされた――

「また明日」――つて
マジかよお……

俺が屋敷に来てから
一週間がたった

まだ俺はこの屋敷にいる

初日から、毎日俺は
毎晩寝室に呼び出されて
「イキそう」な状態にされたまま
開放されるのを繰り返している
なんだかもどかしくて
頭が変になりそうで怖い

今日もまた
「イキそう」にされた
最近はその香がなくても
俺は反応するようになった

「そろそろ、いいか」
おっさんがそう言っ
て俺に近づくと
今日は終わりじゃ
ないのか？
何が、そろそろ
なんだ？

もう、少し触ら
れるだけで
変な声が出るよ
うになっちゃっ
てる
まずいのに……
昼間もぼおっ
として
逃げ出そうに
も体がうまく
動かない

どうにかしな
きゃヤバイの
に
何にも思いつ
かねえ……
これ以上、何
されんだよお

おい—
やめろっ—何……？
何で指……そんな尻の—

まてっ—冗だ—

んほおおあ

フオオ

なん……なんだこれえっ？
指、指が—お、俺のお
尻の—穴ああああ！

ひっ—やめ—

やめろやめろっやめ—
ほじく—ほじくるなあ！

「飲み込んでいくのが分かるかね？」
指の形わかるうう
うご—動いて……かき回してえ

屋敷に来てから十日目——

結局俺は、あれからケツ穴で女になってから初めて「イカされ」てしまった——

どうやらおっさんは今日から本格的に俺のケツ穴を……調教？いや——開発だったか？とにかくそんなことをするらしい

あの感覚は……ヤバいあの日から俺はひたすらケツ穴だけで「イカされ」てもう相当おかしくされている

このおっさんは相当ねちっこいし救いようのねえ変態だが——多分その……かなりウマイ

女を追い詰め慣れているのかとにかく周到に仕込んでくる息を吹きかけるのがいつもの合図——おっさんが本気になった時の合図だ

「今日も君のケツ穴は美しい」——じゃねえよ！嬉しくねえよ——このおっさんバカだろっ！

腹側の奥の弱いところが完全におっさんにバレちゃったから正直もう「イカされ」ることにまったく抵抗できない——

それを体が憶えたのかそれだけで力が抜ける——まずい——大丈夫か、俺？

無理——だあ！ こんな……のお
耐えられるとかそんな話じゃ——！？

グググ

あつひいいいあつ！ なん……？
なんだ今のお……どうやってそんな
ひいああ——まつ……てえ
ちよつとまつ——

なんだよこれなんなんだよお！
引つ掛け——ながら……
えぐつてえ——震えて——！？

あああああつ！ ム……りつ！
これ無理——とめ——やつ……
かきまわすのむりいいい——

灼ける——頭やけるうううう
反則だろこんなのおお——？

マズいマズいマズいマズいマズい
これ——こんな続けられたら
憶え……ちまうよお！
俺のカラダ——おっさんに
仕込まれちまううつ！

ののののの
あああああ
あああああ

開発はやバかった

正直イキ死ぬかと思った
もう、女みたいな声を
我慢しようという気が
おきないくらいイカされた

このおっさん——やっぱりやばい
やばいくらい——うまい

その日だけで、もう何回イッたか
数えられないくらいイカされた
朦朧とする俺に、おっさんは
これからケツ穴のことを
ケツマンコと呼ぶように強く言った
——やっぱりこのおっさんダメだ……

でも——やばい、ケツマンコすげえ
「すっかり雌アクメが気に入ったようだね」
俺は男なのに——こんな変態のおっさんに
ケツマンコでいいように飼われちまつてる
何とかしないと……本当にマズい
これ以上仕込まれたら——俺

屋敷に来て十四日目——
あれから毎日ケツ穴調教されて
俺のケツマンコはすっかりだしなくなった

おっさんが近くにいるだけで
寝室でのことを思い出して疼き出すので
かなり取り返しのつかないこと
なっている気がする——

今さら興奮すんなよ——
そう思った俺が馬鹿だった

寝室に入ったら
すぐさま押し倒された
今日はいよいよ——
ケツマンコでセックスするらしい
今まで我慢していたらしく
おっさんの興奮っぷりが半端じゃない

ダメだ——これだけは……
本当にダメだ——

ビキビキになってる
おっさんのモノを見て
本能的に分かった

俺のケツマンコが——おっさんのモノにされちゃう

あああ——ケツ穴にチンポきたっ！
逃げなきゃいけねえのにつ
ケツ穴の入口こねられただけで
力抜けて——あああ
俺の弱い動きチンポですんなあ——

「今日で君も立派なケツマンコ愛人だよ」
やめろお……そんなこと言うなあ……
入口だけで俺のケツマンコ
もう媚始めちゃうてるのに……

チクシヨウ……こんな
なんで抵抗できねえんだよ——
やめつ——入れんなあ……
やめろ——やめええええ

ケツマンコ奴隷兼愛人にされてから俺は言われなくても——毎日おっさんの寝室に通わされている愛人奴隷とはそういうものらしい

俺はかなり嫌がったがダメだった完全に出来上がったケツマンコにチンポを突っ込まれながら——そう言うように誓わされた

昨日からおっさんのことを寝室では必ず御主人様と言うようになった

チンポのかり首でケツマンコの入り口あたりを浅突きしながらケツアタメを焦らされるのがヤバイアレをされると逆らえなくなる

おっさんは意地悪だからはじめは生意気な俺が徐々に屈服していく様子を楽しみながら犯してくる

ムカつくことを誓わされまいとチンポでの説得に耐えようとする俺に興奮するらしい変態な上に陰険で最悪だ

ゆつくりとチンポを抜き挿しされ一番奥で——わざと止める今日はまた一つ俺の弱点が増えた

きたねえぞ

今日は朝から御主人様とケツハメすることになった

朝風呂帰りに廊下で偶然出くわして俺を見てムラムラムした御主人様にそのまま寝室へ連れ込まれたからだ

朝だから客が何人も扉の前までやつてくるけど御主人様はお構いなしで俺を犯してくる

声を我慢しないように言われたから当然俺の喘ぎ声は向こうに丸聞こえだ恥ずかすぎてイキそうになる畜生……だから朝からは嫌なんだ

最近ではケツハメしている時は女の言葉を使うようにされた

それには俺もかなり抵抗したが三日も入念にケツマンコを焦らし説得されて陥落した

御主人様のケツマンコセックスはマジでねちっこくて激しい俺だけが何度もイカされて失神アクメなんてしようちゆうだ

マジでこのチンポに逆らえないそう気づいたときには手遅れでいつの間にか俺のカラダはそういう風に躡けられていた

あぁっ——くる！ 射精くる！
朝からずつとお預けされたた
ケツマンコ射精くる——っ！

ひいん！ 準備してる——
俺のこと舐けるご褒美射精の準備い
もう俺わかるようになったあ
俺のケツ穴を雌マンコにした
屈服射精来るのわかるう——！

しゃせいキタあ♡

しゃせい♡

おイキ♡
おイキ♡
おイキ♡

おあおあおあ♡
おあおあおあ♡
おあおあおあ♡

うあつああああつ——
きた——きたあ——っ

おあ

あああああ——すげえ……っ！
御主人様のケツマンコ中出し
よすぎる——よすぎて狂うっ！
俺のカラダどんどん雌にされちまつてるう

「女の顔をするようになった」
御主人様がいやらしい顔で
俺にそんなことを囁く——
「そろそろ本当に女になるか？」

は——♡

は——♡

は——♡

親父い……頼むから
来るなら早く来てくれ……
俺たぶん——もう
自力じゃ——無理かも……



自分好みに調教した女を持ち寄って品評する
そんな裏の会合に出席することを強要された乱馬
小柄ながらムツクリとした男好きのする肢体を
ミニサイズのパニースーツに窮屈そうに
押し込めた美少女の登場に会場が沸き立つ

娼婦のような女が多い中で
警戒心と恥辱心をむき出しにした乱馬のような存在は、
列席者の劣情を香応なしに高めていくのだが
そのことに乱馬自身は気付かず、当然ながら
調教主である富豪もそんなことは教えず、
手塩にかけた愛人奴隷をニヤニヤと見守る

唐突に——乱馬のアナルに仕込まれていた
しつぽに横したアナルパイプが振動を始める
もちろん富豪の仕業で、遠隔リモコンを
他の客たちに配っていたのだ

思うまま調教されきつた乱馬のアナルは
こんな状況でもお構いなしに
機械的な振動快感を受け入れてしまう
快感に悶えながらも必死になって声を押し殺す
そんな雌ウサギの痴態に興奮した観客が
一人、また一人と乱馬の周りに集まってくる

耐えることをあざ笑うかのよう
強まる振動と好色な視線が乱馬を追い詰める
十分、二十分と——耐えれば耐えるほど
高まった被虐快感に乱馬の体がとろとろ

「もしもイッたらこの場でお前を犯す」
耳元で舐めるかのように囁かれた
富豪の言葉を聞いた瞬間
乱馬は一気に絶頂まで押し上げられた

結局は富豪の目論見通り、
観衆のなかでいよいよに犯される乱馬
間近で自分の痴態を余すことなく見られる
未体験の恥辱に惑乱しながらも
男に従順なケツマンコは、あつぎりと
この快感を受け入れてしまおう

ムくしよお♡
みるなあ♡

ビク♡

あ♡

みるなあお♡

「お前のケツマンコがどれだけ淫乱か皆に見てもらえ」
自分の主人の言葉に、更にたかぶりあつけなくイク
「あんなに見事なケツイキはそう見れませんな」
悶え泣く乱馬の痴態を見ようとして人が集まり
増していく好色な視線に反応し、
意思とは裏腹に快感を受け入れ更にイク

見た目、凛とした少女が絶頂の悪循環に捕らえられ
恥辱に悶え泣きながら連続アクメでイキ狂う
会場の視線を独り占めにする淫らな踊りを
男の膝の上で繰り広げる乱馬に抵抗する術はなかった

ガク♡

ビク♡

あ♡

じゅぽ

じゅぽ

じゅぽ

じゅぽ

この日だけで乱馬は
ふた桁の視姦アクメをキメさせられ
そのいやらしい媚肉に恥辱の快楽性癖を
刻みつけられることになった

ガク♡

ビク♡

ビク♡

ケツセツタスで無理矢理に説得され
一日を性処理専門メイドとして
肉体奉仕することになった乱馬
本番行為は禁止されたが
屋敷内ならば誰に請われても
その場で性処理を引き受ける
そんな都合のいい存在に
屋敷内は色めき立った

廊下ですれ違うたび、多くの男性使用人は
日頃は触れることも出来ない乱馬に
こぞって欲望のまま奉仕を強要する

一人を終えてもすぐさま
次の一人があらわれて
乱馬の口内に劣情を吐き出して

性臭立ち込める屋敷の狂宴は
ほぼ全ての男性使用人に
乱馬が口辱奉仕をするまで続けられた

「今日だけで何人くわえ込んだんだ？」
「とんでもない淫乱女になったものだ」
ねつちこく腰を使われながらの言葉責め

否定の言葉は弱々しく
ケツマンコをじつくりとえぐられる快感と
言葉責めによる被虐の疼きが混じり合い
強制的にマソ雌へ仕立て上げられていく

男達に散々
強制奉仕をさせられたあと
夜の寝室でメイド姿のまま
緊縛調教を受ける乱馬
何人もの精液で火照つたカラダを
あらためて徹底的に陵辱される

望まぬ被虐快感に弄ばれながら
大量に注がれた精液がケツマンコから溢れ出す
心の薄皮を一枚一枚剥ぎ取られるように
乱馬は今日も堕とされていく

どうも寒衣屋です。
あとがきです。
今回は色々なくて
前にちょろっと準備号を出した
らんま本の正式版です。
やっそこ出せました。
らんま自体はそれこそ
自分が子供時代にふれていたものですが
女らんまの魅力に気が付いたのは
実は最近だったりします。
そもそも設定がエロ過ぎるので
何をどうこうという話でもないです。
もうなんかそこにいるだけでエロいですね。

いつもあとがきは適当なんですけど
あとがきなんて誰も読んでいないよ！
絶対だよ！
三日後十倍だよ！
という教義にのっとして
今回も適当に終わります。
ばもらー。

PS：着る毛布で貴方もみるみるダメになる

奥付
発行 / 片耳豚
発行日 / 2012/12/31
印刷 / コムフレックス
連絡 / katamimibuta@ yahoo.co.jp

